農業経営基盤強化促進法第18条1項の規定に基づき、公表します。

氷見市長 菊地正寛

市町村名 (市町村コード)	氷見市 (162051)
地域名 (地域内農業集落名)	布勢地区 (布施集落、深原集落、上矢田部集落、下矢田部集落、寺飯久保集落、城飯久保集落)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年12月26日 (第2回)

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状と課題

今後、集落営農組織構成員の高齢化が進むことが予想されるため、集落営農内の若手後継者確保が課題となっている。土地改良施設が老朽化しており、地域の営農への影響が懸念される。

(2) 地域における農業の将来の在り方

集落営農組織を有する集落において、まだ集約されていない個人農家の農地を、今後さらに集落営農組織へと集約していく。また個人認定農家にも参入可能な農地を集約していく。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	180ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	180ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別途地図のとおり)

農業振興地域農用地区域内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1) 農用地の集積、集団化の方針

認定農業者へ優先的に農地を集積していく。

(2) 農地中間管理機構の活用方針

農地バンクへの貸付けを進め、担い手への農地の集積・集約化を推進する。

(3) 基盤整備事業への取組方針

条件不利な圃場など基盤整備を必要とする圃場がある。

(4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針

地域の担い手の経営体制が維持できるよう地域内での後継者の育成に取り組む。

(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針

地区内の作業の効率化・省力化を進めるためにドローンなどによる防除作業をはじめ農作業委託の活用を図っていく。

以下任意記載事項(地域の实情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください。)

☐	①鳥獣被害防止対策	☐	②有機・減農薬・減肥料	☐	③スマート農業	☐	④輸出	☐	⑤果樹等
☐	⑥燃料・資源作物等	☒	⑦保全・管理等	☐	⑧農業用施設	☐	⑨耕畜連携	☐	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

多面的機能支払交付金を活用し、地域での農地保全の協働作業に取り組む。